

2024年4月19日

森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

## 海外派遣留学(2021年度出発)による学生の能力及び行動特性の変化について

一橋大学では、海外の協定校に派遣留学をした学生を対象として、JAOS（海外留学協議会）が提供する『留学アセスメントテスト』を利用して、派遣留学により「グローバル環境で必要とされる能力の変化」と「行動特性の変化」を把握している。今回の分析対象者は、2021年度に留学を開始した112名のうち、留学前後のテストに回答した99名（2021年夏出発80名、2022年冬出発19名：回答率88.4%）である。回答者の所属学部内訳は、商学部24名、経済学部22名、法学部16名、社会学部36名、法学研究科（大学院生）1名であり、学年は2年生3名、3年生57名、4年生38名、修士2年生1名、性別は女性43名、男性56名であった。なお、回答者99名のうち6名は一橋大学に既に留学生として在籍している学生を更に海外に派遣している。回答者の派遣留学前の平均GPA（自己報告）は3.58（標準偏差0.31、最小値2.88、最大値4.17）、派遣留学前の英語能力については、IELTSの受験歴がある53名の平均スコア6.61（標準偏差0.59、最小値5.5、最大値8.5）、TOEFL IBTの受験歴がある59名の平均スコア93.42（標準偏差10.27、最小値77、最大値120）であった。

派遣留学先を表1に示す。回答者の4割程度がアメリカやイギリスといった英語圏にある大学、半数以上が欧州の大学であり、アジアの大学は5%未満に留まっている。表2は留学を通して向上を期待する外国語とそのスキルに関する（複数）回答で、全員が英語の向上を期待し、特に向上を期待するスキルはスピーキング（98.99%）およびリスニング（67.68%）であった。表3で回答者の過去の外国滞在経験とその主な目的をみると、半数程度は過去に一月以上の海外滞在経験があり、そのおよそ4割は「親の仕事」による海外滞在、3割は本学での語学・文化研修に参加した学生であった。

表4、表5と図1、図2には、派遣留学前後の『留学アセスメントテスト』の平均値（ $M$ ）および標準偏差（ $SD$ ）と、平均の差が有意であるかについての $t$ 検定の結果を示している。なお、表中のCohen  $d$ 列に示した効果量は、0.8以上であれば大きな変化、0.5から0.8は中程度、0.2以下は小さな変化を意味する。Cohen  $d$ 効果量はいずれも0.5を下回り、非常に大きな変化であるとはいえないものの、表4および図1に示される「グローバル環境で必要とされる能力」のうち、「コミュニケーション」領域における「受容力」と「主張力」、「問題解決能力」領域における「情報収集力」と「迅速実行力」、「グローバルマインド」領域における「成功への熱意」と「主体的行動」において、統計的に有意な上昇がみられた。その一方、「グローバルビヘイビア」領域における「持続力」については有意に低下した。表5および図2に示される「行動特性の変化」については、「自律性」の有意な向上が認められた一方、「徹底性」や「秩序性」において有意な低下が認められた。また、「初対面の人との関係を悪化させるマイナス行動」を示すディレールメントの指標においては「完璧性」や「依存性」および「回避性」で有意な低下があり、「ストレス状態」においても有意な低下が確認された。

以上より、派遣留学を通して積極的かつ自律的に行動する力が高められたことが明らかとなった。同時に、新しい環境においてさまざまな問題に直面する中で、完璧主義的な考え方や行動を見直すことで臨機応変に対応する行動が増え、それらを受容することが自己の行動変化につながったものと推察される。

2024年4月19日

森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

表1 派遣留学先

	割合
<b>英語圏</b>	<b>合計 43.43%</b>
アメリカ	23.23%
イギリス	17.17%
オーストラリア	3.03%
<b>ヨーロッパ</b>	<b>合計 52.53%</b>
ベルギー	11.11%
フランス	7.07%
ドイツ	6.06%
オランダ	5.05%
スペイン	5.05%
デンマーク	5.05%
オーストリア	4.04%
スイス	4.04%
イタリア	2.02%
フィンランド	2.02%
スウェーデン	1.01%
<b>アジア</b>	<b>合計 4.04%</b>
香港	2.02%
韓国	1.01%
中国	1.01%

表2 向上を期待する外国語と外国語スキル（複数選択可）

向上を期待する外国語	割合
英語	100%
フランス語	13.13%
ドイツ語	10.10%
中国語	5.05%
韓国語	1.01%
スペイン語	8.08%
その他	11.11%
向上を期待するスキル	割合
リスニング	67.68%
スピーキング	98.99%
リーディング	32.32%
ライティング	47.47%
あてはまるものはない	1.01%

表3 過去における1ヶ月以上の海外滞在経験とその主な目的

海外滞在経験	割合	海外滞在目的	割合
あり	51.52%	親の仕事	42.31%
		交換留学や単位取得を伴う留学	11.54%
		一橋大学の語学・文化研修	32.69%
		その他の語学・文化研修	11.54%
		その他	1.92%
なし	48.48%		

2024年4月19日

森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

表4 グローバル環境に必要とされる能力の変化

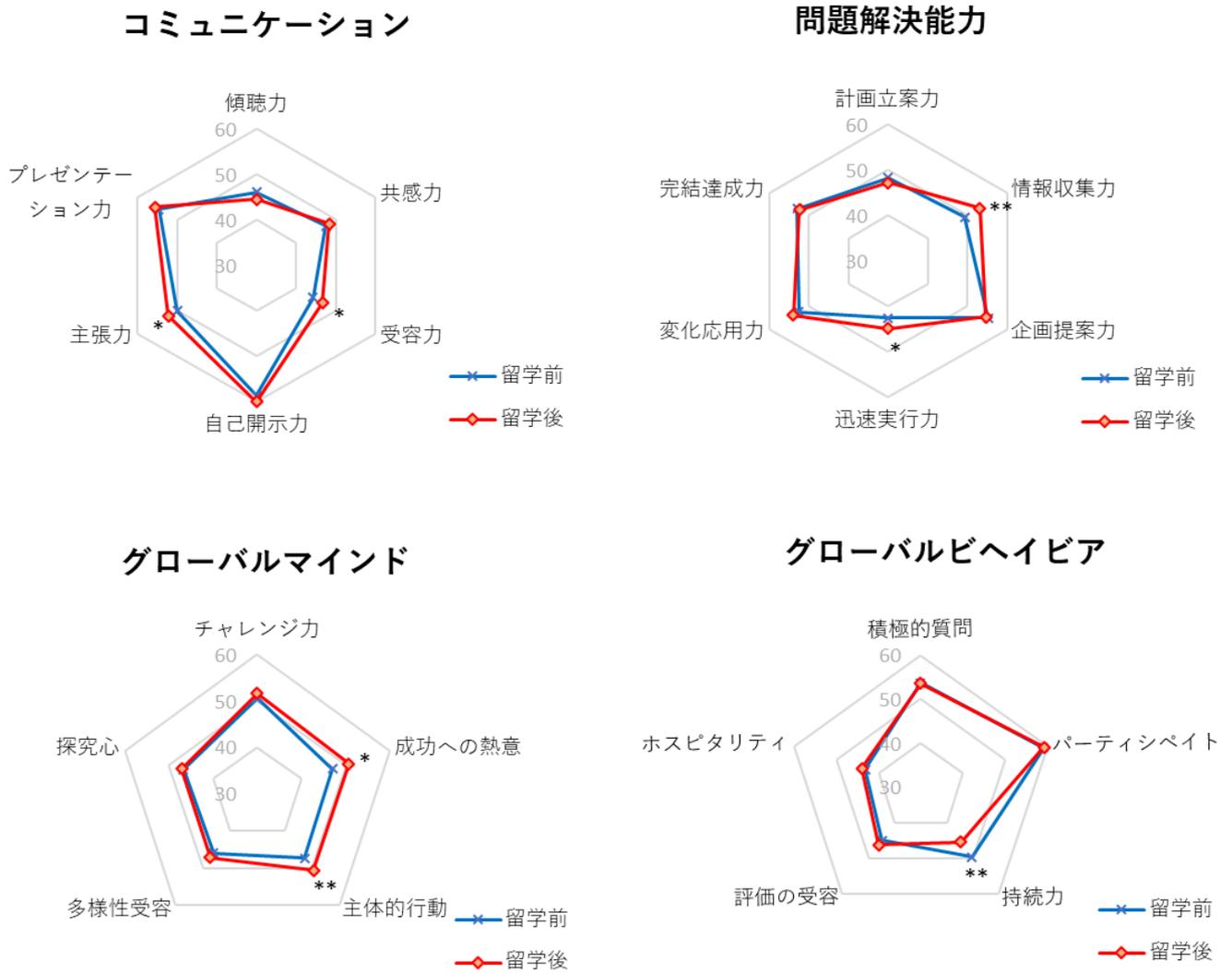
	留学前		留学後		<i>t</i>		Cohen <i>d</i>
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>			
傾聴力	46.09	8.29	44.57	9.06	-1.50		0.15
共感力	47.39	9.02	48.28	11.00	0.76		0.08
受容力	44.21	7.49	46.55	8.89	2.29	*	0.23
自己開示力	58.60	10.46	59.93	10.13	1.29		0.13
主張力	49.98	11.61	52.26	11.80	2.02	*	0.20
プレゼンテーション力	54.72	9.88	55.59	9.25	0.87		0.09
コミュニケーション平均	50.17	5.88	51.20	6.48	1.48		0.15
計画立案力	48.26	10.91	47.17	11.86	-0.89		0.09
情報収集力	49.30	10.48	53.11	11.54	2.99	**	0.30
企画提案力	55.24	8.23	54.65	7.55	-0.63		0.06
迅速実行力	42.62	7.93	44.92	8.33	2.27	*	0.23
変化応用力	52.45	9.69	53.86	9.19	1.29		0.13
完結達成力	52.93	11.21	52.42	10.00	-0.40		0.04
問題解決能力平均	50.13	5.25	51.02	4.71	1.50		0.10
チャレンジ力	50.53	8.28	51.61	9.50	1.17		0.12
成功への熱意	47.05	10.16	50.62	10.46	3.20	**	0.32
主体的行動	47.31	10.49	50.60	11.24	2.44	*	0.25
多様性受容	45.96	8.27	47.27	9.13	1.28		0.13
探究心	46.78	8.40	47.16	7.77	0.44		0.04
グローバルマインド平均	47.53	5.88	49.45	6.06	2.92	**	0.29
積極的質問	53.72	8.14	53.60	8.83	-0.12		0.01
パーティシペイト	59.09	9.08	59.19	8.82	0.09		0.01
持続力	49.60	13.57	45.41	14.14	-2.89	**	0.29
評価の受容	44.93	7.36	46.26	8.59	1.41		0.14
ホスピタリティ	43.14	7.07	43.93	8.59	0.81		0.08
グローバルビヘイビア平均	50.10	4.01	49.68	4.59	-0.81		0.08

注：\*\*は1%水準，\*は5%水準でそれぞれ有意であることを示す。

2024年4月19日

森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

図1 グローバル環境に必要とされる能力の変化を表すレーダーチャート



注: \*\*は1%水準, \*は5%水準でそれぞれ有意であることを示す.

2024年4月19日

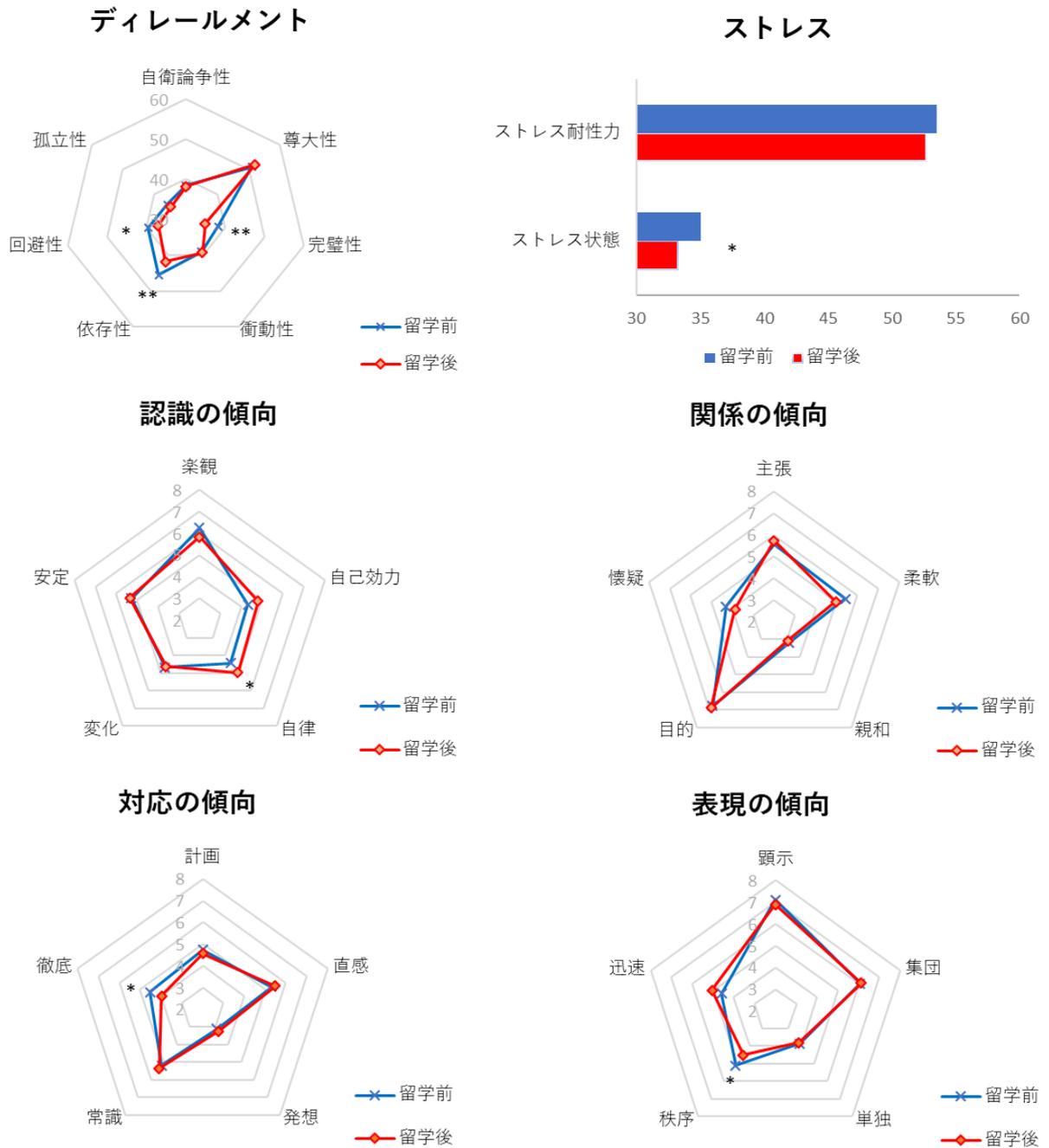
森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

表5 ディレールメント, ストレス, 行動特性の変化

	留学前		留学後		<i>t</i>	Cohen <i>d</i>
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>		
ディレールメント						
自衛論争性	38.38	8.04	38.16	9.30	-0.23	0.02
尊大性	51.00	7.35	52.00	8.23	1.33	0.13
完璧性	38.27	10.10	34.91	10.54	-3.01	** 0.30
衝動性	39.03	9.27	39.35	9.57	0.35	0.04
依存性	45.47	9.37	41.81	8.87	-3.14	** 0.32
回避性	39.61	8.70	37.08	8.72	-2.54	* 0.26
孤立性	35.80	12.02	34.84	11.84	-0.66	0.07
ストレス						
ストレス状態	35.02	5.63	33.22	6.20	-2.51	* 0.25
ストレス耐性力	53.54	9.32	52.73	9.20	-0.68	0.07
行動特性プロフィール						
認識の傾向						
楽観	6.25	2.15	5.82	2.29	-1.66	0.17
自己効力	4.32	1.88	4.82	2.02	1.91	0.19
自律	4.43	1.83	4.98	1.91	2.51	* 0.25
変化	4.68	2.15	4.61	2.29	-0.27	0.03
安定	5.28	2.15	5.35	2.29	0.27	0.03
関係の傾向						
主張	5.59	2.31	5.73	2.22	0.63	0.06
柔軟	5.44	2.40	4.97	2.46	-1.81	0.18
親和	3.19	2.14	3.08	1.94	-0.39	0.04
目的	6.78	2.15	6.88	1.94	0.39	0.04
懐疑	4.31	2.26	3.87	2.41	-1.59	0.16
対応の傾向						
計画	4.73	1.99	4.56	2.07	-0.66	0.07
直感	5.31	1.99	5.48	2.07	0.66	0.07
発想	3.11	1.98	3.26	2.09	0.58	0.06
常識	5.19	1.91	5.37	1.94	0.70	0.07
徹底	4.53	2.25	3.97	2.16	-2.37	* 0.24
表現の傾向						
顕示	7.11	2.00	6.90	2.06	-0.89	0.09
集団	6.07	2.15	6.13	2.25	0.21	0.02
単独	3.87	2.15	3.82	2.25	-0.21	0.02
秩序	5.10	2.24	4.50	2.45	-2.12	* 0.21
迅速	4.59	2.01	5.04	2.29	1.61	0.16

注: \*\*は1%水準, \*は5%水準でそれぞれ有意であることを示す.

図2 ディレールメント、ストレス、行動特性の変化を表すレーダーチャート



注: \*\*は1%水準, \*は5%水準でそれぞれ有意であることを示す。